

平成23年度レギュラトリーサイエンス新技術開発事業における審査結果

平成22年12月27日から平成23年2月10日にかけて提案書の公募を行い、平成23年度レギュラトリーサイエンス新技術開発事業審査委員会でその内容を審査した結果、予定委託先が決定しましたので、「レギュラトリーサイエンス新技術開発事業審査実施規程」第3に基づき、以下のとおり公表します。

1. 審査委員

試験研究課題名	審査委員（審査課題）
①食品の加工・調理がフラン濃度に及ぼす影響の把握	静岡県立大学特任教授 米谷 民雄 (①)
②採卵鶏農場におけるサルモネラ汚染低減技術の確立	日本生活協同組合連合会安全政策推進室長 鬼武 一夫 (①②)
③有毒藻類の培養による各種貝毒標準品の製造技術の確立	国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長 山本 茂貴 (②)
④口蹄疫の伝播リスクと防疫措置の評価に関する疫学的研究	北海道大学大学院水産科学研究院教授 今井 一郎 (③)
⑤弱毒タイプ高病原性鳥インフルエンザウイルスの家きん肉内への出現の検証	財団法人日本食品分析センター理事 渡井 正俊 (③)
⑥野鳥が保有するニューカッスル病ウイルスに関する研究	共立製薬株式会社最高技術顧問 寺門 誠致 (④⑤⑥⑦)
⑦ヨーネ病の早期診断技術の開発と実用化に関する研究	北海道日高家畜保健衛生所長 加藤 昌克 (④⑤⑥⑦)
⑧サツマイモ等の重要害虫であるイモゾウムシの根絶のための実用的な光トラップの開発及び防除モデルの策定	弘前大学大学院農学生命科学研究科教授 佐野 輝男 (⑧⑨)
⑨我が国の重要な農作物に被害を与えるウイロイド病の侵入リスク管理措置の確立	神奈川県農業技術センター農業環境研究部長 小林 正伸 (⑧⑨)
	消費・安全局消費・安全政策課課長補佐 漆山 哲生 (①)
	消費・安全局消費・安全政策課リスク管理専門官 佐々木 貴正 (②)
	消費・安全局畜水産安全管理課課長補佐 鏑木 健志 (③)
	消費・安全局動物衛生課課長補佐 嶋崎 智章 (④⑦)
	消費・安全局動物衛生課課長補佐 安宅 倭 (⑤)
	消費・安全局動物衛生課課長補佐 山本 健久 (⑥)
	消費・安全局植物防疫課課長補佐 相原 史典 (⑧)
	消費・安全局植物防疫課課長補佐 堀田 公生 (⑨)

2. 審査結果

試験研究課題名	予定委託先（下線は研究総括者が所属する試験研究機関）
①食品の加工・調理がフラン濃度に及ぼす影響の把握	・ <u>財団法人日本食品分析センター</u>
②採卵鶏農場におけるサルモネラ汚染低減技術の確立	・ <u>財団法人畜産生物科学安全研究所</u>
③有毒藻類の培養による各種貝毒標準品の製造技術の確立	・ <u>「有毒藻類培養による貝毒標準品製造技術」共同研究機関</u>
④口蹄疫の伝播リスクと防疫措置の評価に関する疫学的研究	・ <u>独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構</u> ・公立大学法人大阪市立大学 ・日本獣医生命科学大学 ・エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
⑤弱毒タイプ高病原性鳥インフルエンザウイルスの家きん肉内への出現の検証	・ <u>独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構</u>
⑥野鳥が保有するニューカッスル病ウイルスに関する研究	・ <u>独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構</u>
⑦ヨーネ病の早期診断技術の開発と実用化に関する研究	・ <u>独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構</u>
⑧サツマイモ等の重要害虫であるイモゾウムシの根絶のための実用的な光トラップの開発及び防除モデルの策定	・ <u>国立大学法人岡山大学</u> ・独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター ・沖縄県農業研究センター ・鹿児島県農業開発総合センター
⑨我が国の重要な農作物に被害を与えるウイロイド病の侵入リスク管理措置の確立	・ <u>独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構</u>